

第5期 麻生区区民会議 第7回全体会議

- 1 開催日時 平成28年2月12日（金）午後3時05分～午後4時35分閉会
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]  
石井（郁）委員、石井（よ）委員、石川委員、植木委員、岡倉委員、  
小尾委員、金光委員、白井委員、菅野委員、高倉委員、高橋（克）委員、  
林委員、宮本委員、山田委員、吉垣委員  
(欠席) 上野委員、梶委員、志村委員、高橋（慶）委員、横田委員  
[参与]  
勝又参与、相原参与、石川参与  
(欠席) 雨笠参与、老沼参与、木庭参与、月本参与、花輪参与、山崎参与  
[事務局]  
井上課長、白石担当係長、麻生、佐藤、榎本  
[関係者]  
向坂副区長、小金井区民サービス部長、若尾保健福祉センター所長、  
塚田保護課長（代）、綱島道路公園センター所長、岩佐こども支援室長、  
岡村地域振興課係長（代）、別所生涯学習支援課長、  
三枝危機管理担当課長  
(欠席) 多田区長、川本総務課長
- 4 傍聴者 0人

## 第7回麻生区区民会議

日 時 平成28年2月12日（金）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時05分開会

### 1 開 会

金光委員長 それでは、ただいまより第7回麻生区区民会議を開催したいと思います。

区民会議もことしで最後の段階に入ってきました。もうそれぞれ各部会でまとめの段階に入っていると思いますけれども、これから定例会議以外にもまとめるためにそれぞれ臨時会合等も開いて、最後の詰めに入るとは思います。ひとつ皆様方、さらに一層努力して、いい提案をつくるよう頑張ってくださいと思います。

また、ことしは、暖冬というような長期予報が出たのですが、さにあらん、2月に入りましてかなり寒い日にちが続いております。最近、インフルエンザが大分はやってきたというふうな報告も受けておりますけれども、皆様方におかれましては、体調管理を十分していただいて、インフルエンザにかからないよう、また、業務に差し支えないように健康管理をやっていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

### 2 議 事

金光委員長 それでは、早速、本日の議事並びに資料について事務局より確認をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、まず、お手元の次第をごらんください。議事を確認させていただきます。本日、議題の1番目といたしまして第5期麻生区区民会議調査・審議課題等について、2つ目といたしまして区民会議フォーラムについて、3つ目といたしまして区民会議報告書について、4つ目といたしまして区民会議からの麻生区市民提案型協働事業審査委員会委員の推薦について、5つ目といたしましてその他となっております。

それでは、続いて、お手元に配りました配付資料の確認をさせていただきます。次第をめくっていただきますと、資料1、席次表がございます。続きまして、資料2として第5期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として若い世代が住みやすいまちづくり部会の調査審議状況、資料4として市民活動・地域活動の活性化部会の調査審議状況、資料5-1として区民会議フォーラム（案）、5-2として区民会議フォーラム役割分担（案）、5-3として区民会議フォーラム会場配置図（案）、5-4として区民会議フォーラムアンケート（案）、5-5として区民会議フォーラム報告資料

(案)、5-6として区民会議フォーラム広報先一覧となっております。続いて、6-1として区民会議報告書作成スケジュールについて(案)、6-2として区民会議報告書の構成について(案)、7として麻生区市民提案型協働事業審査委員会委員の推薦について、資料8として第5期区民会議スケジュールとなっております。続けて、参考資料はその後つけております。参考資料1として第6回麻生区区民会議議事録、2として区民会議ニュース第4号、3としてやまゆりニュース18号、最後に、4としてプロボノ文化祭チラシ、以上になっております。資料に不足等ございましたら、お申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、委員長、よろしく申し上げます。

#### (1) 第5期麻生区区民会議調査・審議課題等について

ア 若い世代が住みやすいまちづくり部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、早速、議題に入りたいと思います。まず初めに、若い世代が住みやすいまちづくり部会の審議検討過程について、白井部会長からご報告をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

白井委員 皆さん、こんにちは。それでは、これから若い世代が住みやすいまちづくり部会の調査審議状況をご説明いたします。

ここまでこの部会でいろいろ議論しながらまとめたり、あるいはアンケートをしたり、それから、ヒアリングに行ったりということで、まとめてきたのですが、ここへ来て、だんだん集約してくるといふか、基本的な考え方がまとまりつつあります。というのは、よく話で、日本人は余り得意ではないかもしれませんが、結論から言って後話すということになるかなということ、きょうは結論めいたことを言います。

まず、右下の「若い世代が住みやすいまちあさお」ということで、この形で行こうかという雰囲気になってまいりました。というのは、これでまたもとに戻って、今までの経過を少し話してみようと思っているのですが、この部会のまず初めの背景、この地域が、これは日本全国どこでもというところもあるのですが、少子高齢化が、あと20年ぐらいたつと高齢化が進んで、この地域もそういったことになる、人口も減ってくるということの中で、まちがいつまでも元気であるということがどういうことをしたらいいのだろうということから出発しました。その中で、次の方向性・課題を議論していく中で、生産年齢世代の減少が一番問題でしょうということ、子育て環境をよくして、麻生区の魅力をアップして、それについて、麻生区というのはかなりのところが開発されて、まだ緑があるのですけれども、これを全部つぶして住宅にするというような、人口もふえませんが、こういう状況の中で、空き家がやはりふえてきている。前回の国勢調査では10%前後と言われているのですが、今回のやつがまだ結論が出ていませんからあれですが、もう少しふえているのではないかと

ところもあって。これは10%というのは、全てが全く空き家ということではなくて、賃貸物件で空いているところもあるのですけれども、そういうことも含めて、この辺の活用ができないか、新しい住宅がつかれないのであれば、こういうことをうまく活用ができないかということをあわせてやっていこうと、これが高齢化の地域の解決にもつながるかなということ。

それから、次にありますように、意見交換の結果、検討すべき課題をその段階で3つに分けました。芸術・文化や緑、交通の利便性などの麻生区の魅力のPR不足だろということがまず1つありました。それから、若い人の住まいとして、増加している空き家を活用できないか、先ほどちょっとお話ししましたような話です。それと、親や子が身近で遊べる場所や機会づくり、世代間の協力など、良好な子育て環境が必要だろうという3つに分けられました。この中で、3番目のものについては、「麻生区の魅力」という中で同時に話ができるだろうということで、そこに集約して、それも含まれるだろうということで、この2つの基本テーマ、審議のテーマにして、「麻生区の魅力のブランド化とPR」が1つ、もう1つは、「空き家の利活用」ということで、これは全部、最初の背景ですとか、今後のまちのあり方のようなことをここで進められるのではないかということになりました。

それが真ん中の調査というところで、「麻生区の魅力のブランド化とPR」ということで、まず、この議論の中で、モデルというか、参考にできるのではないかということで話が出たのが、流山市のさまざまな取り組み、若い人が住んでみたいという中のかなり上位ランクにされているということで、それはどういうことかということで、新しい線ができて、交通の便がよくなったということと、それから、魅力のPRを30代、40代の子育て世代に設定してやられているということで、子育てするなら流山とか、都心に一番近い森のあるまちというような、2つのPRということで、相当これが人気が上がってきたということで、委員の方からの紹介がありまして、そこを本当は調査に行く予定だったのですけれども、向こうの役所のほうでなかなか受け入れができませんということで、こちらでいろいろ注文した内容については答えていただいて、そこは参考にさせていただきました。

それから、「子育て世代の感じる魅力の調査」ということで、これが今回、我々の結論というか、方向性を少しつける意味で重要だったのですけれども、あさお子育てフェスタで268件というアンケートを回収ができて、この中で非常に興味深い話が幾つか出てまいりました。「緑が多い」とか「治安が良い」ということは皆さんも感じているところだったと思うのですが、この中で子育てについて100%十分ではないとは思いますが、かなりの人たちが子育て環境がそんなに悪くないというようなニュアンスの回答が得られました。

もう1つは、麻生区に住むきっかけというのがありまして、ここには出ていないの

ですが、後で報告書の中には必ず入れるようにしますが、結婚を機に引っ越しました、子供を育てるために引っ越しましたというようなことで、こちらがここのところが不十分ではないかと思われていたようなことが、結婚するに当たって家を求める中で非常にいい環境だと言われています。それから、「人間関係が良い」ということも本当ですかというぐらい、みんな委員の中で話になったのですけれども、周りの方がいいと言われて、中には嫌な人が近くにいる人もいるかもしれませんが、それと、委員のいろいろな人との会話の中でも、私もNPOとかで接している職員なんか聞いてみると、周りの人はすごくいいですよというふうなことを言います。中には本当に問題があることもあるかもしれませんが。

大学にも同様な話で、大学のヒアリングの中でも、学生さんにもちょっと聞きましたけれども、非常に印象がいいということは言われております。

それから、もう1つ、空き家の調査では、これも全国的な取り組みだとか、いろいろな法律的な取り組みがされていますが、市のまちづくり局等のヒアリング、来ていただいている話を、今の取り組み等を聞きました。

それから、不動産業者についてもヒアリングして、話を聞いております。

もう1つは、大学で、空き家で、学生さんが例えばシェアハウスが今何カ所かで、例えば横須賀ですとか、多摩市のほうでやられていたり、幾つか事例があるのですけれども、そういったことはどうでしょうかということで聞いてみたら、映画大学では学生さんにアンケートをとって、そのときの回答が、179名のうち71人がシェアハウスをしてもいいですよと、そういったことで、URがそこに団地がありますので、百合丘団地ですとか、白山の空き家の今後の対策ということで、そこと連携したりして、いろいろ調整はしているらしいのですが、こういったことも考えられるかと。音楽大学のほうも聞きましたけれども、音楽という特殊なところがあるので、なかなか難しい部分もあるようですが、大学の方へも、区内の4校でしたか、ヒアリングでお話を聞きにっております。

そういったことをずっとやっている中で、下の5番、「提言に向けた検討」なのですが、「麻生区の魅力のブランド化とPR」ということで、実は先ほど結論を言ったのですが、「若い世代が住みやすいまちあさお」という、もう既にある程度のブランドができていて、しんゆりというイメージも強いのですけれども、麻生はできているのではないか。その中で、子育て世代の感じる魅力としては、子育てしやすいとか、利便性が高い、ここから電車に乗ると、東京のほうにお勤めの方も、割と楽にいろいろなところへ行けますので。それから、「治安が良い」というのも圧倒的に、上のほうにグラフがありますけれども、「そう感じる」4、5で74%とか、「緑が多い」も80%近いとか、これは全市の中でも麻生区がかなり高いというのは今までも言われていますが、見える景色の中でも緑が多いということは感じられています。

もう1つ、「芸術のまち」というのが、浸透していない世代もあるかもしれませんが、かなりいろいろな活動をやられているし、この中でうまくこれを組み合わせればということで、こういったことが言われています。

それを「魅力資源の充実」ということで、今回、若い世代に向けてPRをしていますが、魅力をより高める方策ですとか、それから、資源の生かし方をこれから各委員の方の意見を募ったり、議論しているところです。

2番目に「若い世代に向けた魅力のPR」、これも区にあるさまざまな魅力を効果的に若い世代にPRするために、キャッチフレーズ、先ほど流山もいいキャッチフレーズを考えてありましたけれども、そういったこと、それから、さしあたり、区のホームページの改善等、考えられるのではないかと。それから、そのほか何かないかなということで、今探っているところです。

もう1つ、「魅力資源を持つ各主体の連携」というのが、この区民会議もいろいろな団体の代表の方、そこから出ていらっしゃる方等含めて、いらっしゃると思うのですが、そういう魅力を伝えるために、同じベクトルで、同じ方向を向いてみんなが、麻生区というのはこういうところがいいんですよということを伝えていけば、外に対して、内に対しても、魅力がかなり浸透してくるのではないかとということを今話をしております。

それから、「空き家の利活用」については、これも先ほど途中で触れましたけれども、学生さんだとか、最初の話の中で、若い世代を空き家に斡旋したり、うまく住んでいただくような手法がとれば、まち全体が場所によっては空き家ばかりになって、寂しい状況だとか、高齢者ばかりになってというようなことがないようなまちができるのではないかとというふうに考えてきております。

そこでまた結論的なところなのですが、若い世代が住みやすいまちあさおにするためにどうするかと最初は出発したのですが、どうも若い世代が住みやすいのではないかと、「住みやすいまちあさお」なのだよということをPRしていこうということを今考えております。

それぞれ、これからやらなければいけないことがあるのですが、魅力ある麻生がまず中心にあって、その中で、例えば緑、自然が多いといっても、ただ見ているだけの緑、自然ではなくて、自分で体験できるとか、そういったことを今後のいろいろな取り組みの中でやっていってもらえれば、例えば農業体験ですとか、近くに明治大学があったり、畑がまだあったりしておりますけれども、そういったことだとか、あとは子育てというのも、コンシェルジュ的に、こういうところへ行ったらこういう保育所があるよとか、そんなことももう少し付け加えていけたらというようなこと、治安も今後、まちの中で、町会等を通じて、団体が取り組んでいくとか、それはどこでも言われているようなことでしょうけれども、それから、利便性についても、議論

の中で、最初からあるのですけれども、今後、100%まだ決定はしていませんが、地下鉄3号線の延伸ですとか、駅周辺の道路の混みぐあい等を少し改良しなければいかならうというような話も同時に課題としては挙げられております。

それから、芸術のまちなのですけれども、これも長い間取り組まれている団体もありますし、言葉としては浸透はしております。ただ、区民にどの程度まで浸透されているのか、あるいは外から、あそこは芸術のまちでしょうというふうに言われるまでにはまだなっていないのかなということ、今後言われるような形になればと、こういう魅力が実はあるので、もう少し改良したり、それがうまく機能するよというということで、なりつつあります。そんなことを今議論しているところです。

最終的には、今申し上げたようなことが一部なのですが、「麻生区の魅力のブランド化とPR」の提言に向けてという中でまとめていければと思っています。我々ができること、役所のほうでお願いするようなこと、それから、いろいろな団体の方とやれることということで、できればということなのですが、これを1つのテーマとして、いろいろな団体の方と話ができるような場面を、できれば5月ぐらいに、フォーラムという形にするかどうかはあれなのですけれども、そういったことでやればなというような段階でございます。

以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございました。それでは、今の説明について、補足説明、あるいは意見等ございましたら。

高倉委員 それでは、1つ質問というか、ご意見を伺いたいと思うのですけれども、麻生区の魅力を掘り起こして、ブランド化を目指すということで審議されてきているということで、先ほどの説明の中でちらっと新百合ヶ丘という言葉が出ましたけれども、そこで私はどうしても気になるのは、麻生区にありながら、麻生区を超えていると思います。新百合ヶ丘というブランドとの兼ね合いはどうかなということ、ちょっと気になっているのです。新百合ヶ丘、一種のブランドだと思います。というのは、地名でもないのに結構浸透していて、不思議な存在なのです。川崎市以外の知り合いに、どこに住んでいるのですかと聞かれたときに、「川崎市麻生区」と言うよりも、「新百合ヶ丘」と言ったほうがよっぽど通じるという経験を私自身もしましたけれども、皆さん方もされているのではないかと思います。そこで、新百合ヶ丘がなぜ知られているかという理由はいろいろあると思うのですけれども、麻生区のブランド化を目指す中で、新百合ヶ丘というブランドを生かすといいますか、利用する考えはないのかということですね。もし生かすのであれば、どんなことが考えられるのかということをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

白井委員 この辺も最初の段階からいろいろ議論になりまして、今お話のように、ここは地名はないのですね。駅の名前だけです。百合ヶ丘があって、新しくできた駅なの

で、新百合ヶ丘ということにつけられたようです。先ほど「若い世代が住みやすいまちあさお」というのが、この区民会議という場面でやっていますから「あさお」というふうに言わざるを得ないのかもしれませんが、「若い世代が住みやすいまちしんゆり」というふうに売り出すと結構わかりやすいかもしれないねという話はしております。この辺はどういう提言にするかということなのですが、それぞれの皆さんの中でこれから考えていく話かもしれませんし、しんゆり自体が、芸術のまちづくりをやったり、昔、一部にシンユリーゼという言葉が、シロガネーゼというのは皆さんご存じだと思っておりますが、そういうことをちらちら言い出した、その辺は、その後、何も言っていないけれども、どこが言ったのかわかりませんが、そういうことだとか、やる方法はあるかなと、もう少しダイナミックにやるのはそういうことのほうがやりやすいのかなという感じは議論の中ではしております。

あと、先ほどの流山も、何々するなら流山というふうにつけているのですね。だから、流山が割と外に。流山は地名もあるのであれなのでしょうけれども。その辺はこれからどうするかなという、二本立てでいくのかという感じでしょうかね。話の中ではそんな感じになっております。ここでそういう話をちゃんとしたほうがいいのかなどは、委員の皆さん方もしておりますので、ぜひまた話し合ってみたいと思います。

菅野副委員長 話の中では、緑、自然、子育て、治安、芸術とありますよね。もう1つ利便性がありますね。利便性というのはどういうふうの説明するか。新百合ヶ丘駅があるよというのは、しんゆりというのは、そういうところの地域性の内包するような存在かなというのは、そういう話は出ているのです。魅力の1つとして内包しているというのは。

金光委員長 これはどっちをとって、麻生区と言っていくのがいいのか、しんゆりというのを表に出して、今浸透しているものをそのまま踏襲してしまったほうが、麻生区そのものの存在を、より一層魅力あるものに見せる、どちらがいいのかというのは、これから議論していく余地があるのだらうと思います。我々もまだどっちにしていこうというのは結論が出ていないのですよ。非常に難しい問題なのです。ですから、これはまた5月に、ほかの団体、文化協会とか、あるいは観光協会とか、そういうところで絡んでいる、文化活動をしている団体の方々と意見調整をして、どういう形で訴えていったほうがいいのか、若者の心の中にぐさっと突き刺さるような形で訴えるには、しんゆりという言葉のほうがよければ、それを踏襲するような形になるでしょうし、もっと新しい形のことを考えて、それで、麻生というものをもっと打ち出していくということであれば、そちらのほうに行くと、これからそれを十分審議させていただければと思います。

白井委員 先ほど方向性を1つにというのが、区役所のいろいろな団体の活動でもそうなのですから、いろいろな報告書をつくるときもそうなのですが、別々にまたテー



マをつくり直したりしているのですね。だから、その辺が調整はしなければいけないのですけれども、ある程度これで行こうと思ったら、同じことを考えないと、ばらばらになるかなと、方向性を同じにしたいなということで、今回、せつかくここまで来ましたので、その辺が提言の中でうたえればというふうには考えています。

金光委員長 そのほか意見ございますでしょうか。

なければ、今の報告と意見を踏まえて、ご意見はございませんでしょうか。これで承認を得られますでしょうか。もし異議なければ、拍手をお願いしたいと思います。

[ 拍手 ]

金光委員長 どうもありがとうございました。

イ 市民活動・地域活動の活性化部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、次の審議に入りたいと思います。市民活動・地域活動の活性化部会の岡倉部会長に経過報告をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

岡倉副委員長 それでは、市民活動・地域活動の活性化部会の調査審議状況を報告させていただきます。資料は4になります。

この部会では、今までいろいろなことを中で審議してきました。知っていることがいろいろあって、それが調査して、わかったということが、いろいろなことが出てきました。先ほど若い世代が住みやすいまちづくり部会のほうでも報告がありましたように、こちらのほうの部会では、真ん中のところに書いてございます9番の「提言の方向性の検討」の黒い枠で書いてあります「あさおボランティア情報センター」、これがどうも、先ほど言われたような結論になりそうだということです。じゃ、どうしてこういうふうな結論に至ったかというのを、背景とかも含めて、これまでの調査状況を含めて報告させていただきたいと思います。

こちらのほうで市民活動・地域活動の活性化部会と言いながら、今、ボランティア活動の促進に力が入っています。それも市民の地域活動への参加促進という面が強調されているというふうに理解していただければと思います。市民活動・地域活動の活性化部会、市民が地域活動への参加を促進するのだというふうな、そういう方向になってきております。

それで、2の「方向性・課題の抽出」で、緊急性、必要性大ということで、6つの項目が出ております。「シニア等の地域への参加」、「ボランティアの活動促進」、「地域人材の育成と人材活用」、「各団体の相互理解」、「活動団体等への運営支援」、「情報発信の環境整備」という形で6項目あります。この中で、最初の議論の中では、ここに「第3期区民会議審議事項」と書いてあります、「地域人材の育成と人材活用」、これは大事だねという議論がなされています。ただ、この審議事項を受けまして、区のほ

うで行政と関係団体、関係機関による地域人材についての育成機関ということで、麻生区の地域人材育成連絡会議というのが設けられまして、そこで地域人材のコーディネーターを育成するというので取り組まれておりますので、それについては当部会では特に掘り下げて議論することはしないというふうなことで、この連絡会議のほうから逐次進捗状況を報告していただいているという取り組みを行っています。その中で、今お話ししました最優先のテーマが「ボランティアの活動促進」ということで、ボランティア活動への参加促進という意味合いになります。優先テーマが「情報発信の環境整備」と「シニア等の地域への参加」、もう1つが、全体にかかる問題として市民活動等への運営支援ということで、とりあえず「ボランティアの活動促進」を重点的なテーマで議論していく内容になっています。

ボランティアということで、いろいろ議論した中で、ボランティアの意識とか行動は変化していく、そして、それを5つの段階に分けて検討したらどうかというふうな案が出まして、ステップ2のところに書いてございます。ステップ2の「ボランティア活動へ一歩を踏み出してみる」、ここの意識を醸し出していただくということで、じゃ、それを一歩踏み出してもらうためにはどうするかということで、5番の「具体的な審議内容の設定」ということで、気軽に参加できる仕組みを検討しようではないかということを中心にしました。そうしたら、そのとき、ターゲットを決めたほうがいいのか、そういうことがありまして、その議論の中で、先ほどの審議テーマの1つの「シニア等の地域への参加」というのがありましたので、定年退職とかかれて、何もすることなく、何となく毎日ややもやと過ごしている元気なシニア世代を想定して仕組みを検討しようではないかということになりました。シニア世代が参加できるのは、若い人から十分参加できる仕組みになるねというふうな議論もございました。

その中で、じゃ、シニア世代というのはどのぐらいいるのだろうかということで、いろいろ統計を調べております。例えば麻生区のシニアということで、シニアというのは60歳から74歳という、いろいろな考え方がありますが、人口で見ましたら、麻生区で65歳から74歳までが大体2万人です。そうすると、毎年、2000人の人が地域に入ってくるという、退職された2000人。これ、男の方も女の方もいられますから。じゃ、その人たちはどこへ行くのということで、60歳から以上の人たちがいろいろな活動ができるというところが、老人いこいの家、麻生区には7カ所あります。私どもも調べに行っただけですけども、麻生の老人福祉センターが1カ所ありまして、全部で8カ所、地域の人たちがそこを60歳以上の人たちが利用できるということで、そうしますと、調べてみたら、両方で1日430人ぐらいの人、426人と言っていたかな、その方が毎日利用できるということで、そうすると、2000人も人が地域に戻ってこられて、さて、どこへ行くのだろうかということも考えて、シニア世代をターゲッ

トにして地域で活動できるという、気軽に参加できる仕組みがあるといいねということとをここで再確認したようなことです。

それと、あともう1つありまして、平成25年度の市民自治の実態に関する調査というのが市のほうで行われています。これが50歳から74歳を対象にした調査でありまして、社会活動とか、地域活動への関心度を調べた調査がありまして、それを見ますと、男性が一番関心があるのは、65歳から69歳なのです。女性は60歳から64歳、その方たちが一番社会活動とか地域活動に関心がありますと答えていただいているので、データというか、市のほうの調査ですけれども、そういうふうなことを踏まえると、シニア世代をターゲットにして、気軽に参加できる仕組みをつくる方がいいんだなというのもここで再確認したところです。

じゃ、その人たちにどうやって訴えようかということで、7番のところなのですが、そこについては、去年、川崎市シティプロモーション戦略プランというのができまして、川崎市を早い話がどうやってPRしていくかという話なのですけれども、そのPRの仕方は情報の受け手のほうの立場に立って情報発信していく、そうすることで一歩踏み出すきっかけを与えるのですよというふうな、そんな内容だったと思います。

それで、部会のほうでも、ここに書いてあります、情報の受け手を意識しまして、「ボランティア活動に参加して健康寿命を延ばしましょう！」というタイトルを考えて、右のところにあります「麻生区健康づくりのつどい」というのを開催しました。ここでわかったことなのですけれども、ここは区民との意見交換をメインにしておりますので、「ボランティア活動に関心がありますか？」「活動に参加したことがありますか？」というのは、統計的にはちょっと合わない面もあるかと思います。各部会員の方が健康づくりのつどいに参加していただいたお客様とお話をしながら、いろいろ調査をしたということになっています。

そうしますと、ここにいろいろ書いてありますけれども、人はそれぞれお話ししますと、ストーリーがあるということがよくわかりました。資格を生かしたいとか、経験を生かしたい、社会の役に立ちたいとか、友人・知人から誘いがあったから参加するのだという方もいらっしゃいました。自分は英語ができるから英語を生かしたいというふうな形で具体的に言われる方がいらっしゃいました。その中で皆さんに気軽に参加できるようにするためには何が必要だと思えますかということでお話を聞いております。そうしたところ、情報の流れというのですか、情報の受け手と出し手のギャップが非常に大きくなっているということを感じました。区民の目線というか、受け手の目線からしますと、退職後に自分のタイミングで情報が欲しいということを書いていられるわけなのですけれども、そういうふうな受け手の方に対して、団体のほうは、各団体の都合で情報発信している、そこでうまく情報がマッチングしていないと

ということが起きているということがわかりました。

それともう1つ、情報の流れなのですが、各団体がそれぞれ情報を出しているのです。ですから、情報の流れがいっぱいあるのです。それに受け手のほうがアクセスするというのは非常に大変だと。そんなふうなこともよくわかりました。

それともう一方が、受け手のほうの情報、区民のほうの情報なのですが、それを出すほうが非常に少ないのです。例えば相談窓口へ行って相談する、それは情報を出しているということになると思います。例えばイベントがあって、そのイベントに参加する、それも情報を出しているということになるのですが、非常に少ないということがこの中から見えてきました。

それで、そういうふうなことがわかりましたので、実際に相談とかをやっているボランティアセンターを視察してみようということで、右のところの世田谷ボランティアセンターに視察してきました。ここが社会福祉法人になっていまして、設立の当初は市との協力があって、世田谷ボランティアセンターができたのですという説明がありましたけれども、ここでやっているのはコーディネート事業をやっています。コーディネート事業というのは、ボランティアをやりたい、やろうとするときにできるようにするのだという、それをモットーにして、やりたい人と受け手のほうを結びつけるということの基本にしているというか、ポリシーにしているということを伺いました。

ここの相談業務は、このボランティアセンターとビューローという形で、窓口が3カ所あります。センターが1カ所。ですから、全部で4カ所ですか。世田谷区は人口が88万、90万近いと思いますから、4カ所で少ないのかなと思ったりしましたがけれども。このセンターでは、たしか夕方8時ごろまでやっています。休みは月曜日です。ビューローのほうは日曜日が休みなのかな。ですから、やろうと思ったときに相談できるというふうな体制がとってありました。

コーディネート事業のもう1つが「おたがいさまBank」という形で、これは人材登録制度ではないのですね。人材というと、資格とか、特技とか、自分はこんなことができるのだという、そんな登録制度ではないです。1時間でも2時間でもあいていれば、そのときにお手伝いできますよというふうな、気軽な、登録制度と言ったら登録制度なのでしょうけれども、そんなふうな仕組みになっていました。それもやはり面談が基本ということで、そういうふうな時間があって、やりたいということがありましたら、フェース・ツー・フェースの相談をしていただいて、それからボランティアにかかるという仕組みがございました。

それで、そういうふうなことを踏まえまして、9番の「提言の方向性の検討」のところなのですが、「気軽に参加できる仕組みの検討にあたっての新たな見方」ということで、情報の流れをよくすることがポイントになると考えています。

その情報の流れというだけでなく、もう1つポイントとして考えられるのが、バーチャルとリアルということではないかと思っています。バーチャルとリアルという今風の言葉なのですけれども、早い話が、バーチャルというのはネットで情報を流しましょう、それと、リアルというのはフェース・ツー・フェースの相談ですね、そういうふうなものを組み合わせること、それが気軽に参加できる仕組みのポイントになるのではないかと。ですから、繰り返しになりますけれども、気軽に参加できる仕組みの検討という中では、情報の流れをよくするのだ、それも双方向の流れをよくするのだと、その仕組みとしては、バーチャルとリアルの組み合わせなのだ、そんな方向が見えてきたなということになっております。

その下に書いてありますけれども、「チラシを『手渡し』して友人・知人に直接参加を呼びかける」、これについてもリアルと言ったら変ですけれども、そういうふうなものを組み合わせることによって参加していただける方が多いというのがわかってきております。

最後なのですけれども、「あさおボランティア情報センター（仮称）」と書いてあります。コーディネート機能、その下に書いてございます。こういうふうなことが提案という形になっていくと思います。ただ、とにかく、あさおボランティア情報センターみたいなのができるといいねという話、でも、ちょっと難しいねという話は中々しているような状況です。

まずは1つ目が、ボランティア関連の情報を集め、一元的に管理して、発信するのだ、ボランティアを始めたい人や担い手を集めたい団体が気軽に相談できる総合窓口を設置したいのだと。実際、現状を考えてみますと、今、市民活動相談窓口ですか、市民交流館やまゆりでやっていますけれども、これが毎週火曜と木曜、生涯学習相談コーナーが毎週水曜日、麻生区の社会福祉協議会のボランティア振興センターでやっていますボランティア相談コーナーというのが、第1と第3の火曜日の午後からというふうになっていますから、これも非常に気軽に相談できるという仕組みと言えば、難しいねという話、ここを統合した相談窓口みたいなのができる、具体的にリアルで難しくても、バーチャルで情報とかが統合されるといいねという話も出てございます。

そして、その次のボランティア活動を推進する制度ということで、人材登録制度、これは人材というの意味を取り違える方もいらっしゃいますから、エントリーするというか、そういう仕組みがあるといいねとか、会員もポイント制度ですか、これはどうなるかわかりませんが、こういうふうな仕組みもあつたらいいねという話が出ております。

最後のところに、「キャッチフレーズを活用したボランティアの啓発や専門的なコーディネーター養成」という形で、先ほどのコーディネーターの養成も必要だということ

とがあります。ただ、キャッチフレーズのところは、市民が主体的に地域活動の解決に取り組むのだという、ボランティアなどというふうな地域をつくっていく、まちづくりをしていくという、そういうコミュニティーをつくっていくのだということを、ちょっと言葉はあれですけども、ボランティア基本計画とかという、そんなものができて、そこに高々と趣旨が書いてあって、麻生区はそういうまちづくりに向かってボランティア活動を推進していくのだと書けるといいねというふうな議論も出てございます。

そして、最後なのですけれども、今度の21日に区民会議フォーラムということで、「健康寿命を延ばすためには？」というテーマで話がございます。

以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。ご意見、あるいは補足説明はございますでしょうか。

「あさおボランティア情報センター（仮称）」と書かれていますけれども、これを麻生区内につくりたいというのですか、それとも、こういうのがあったらいいなということなのでしょう。今、やまゆりの窓口のところにもいろいろな相談コーナーの窓口が設置されていますよね。その中には各麻生区の中で活動しているいろいろな団体が登録されていて、それも既にやまゆりの中にはきれいなデータがあるということで、やまゆりに来て相談すれば、どこでどういう活動がされているかということを実に話が聞けて、自分の行きたいところの活動に参加できるという仕組みになっているわけですよね。今、ここで区民会議でそういう形でやっているというのは、やまゆりとの整合性というのはどういうふうに考えられているのですか。既にあるのに、また別個につくろうというふうにするのか、やまゆりの機能をもっと拡大して、それで、もう少し多くの麻生区の市民に存在を認知させて活動しやすいような環境づくりに発展させるという方向へ持っていこうとしているのか、今の話を聞いていて、ボランティアをやる人たちのことを補足することなのでしょうけれども、既にできているところの中にやまゆりの活動があるわけですから、そことの関連性をもうちょっと具体的にどうするのかということでも話をさせていただくとありがたいのですが。

岡倉副委員長 今のお話なのですけれども、世田谷ボランティアセンターというところへ行ったときに、ここはホームページを見て、「ボランティア」という形で引くと、ここしか出てこないのです。社会福祉協議会がやっているボランティア相談とかは出てこないのです。当然社会福祉協議会もやっています。まちづくり協議会というところでも同じようにやっています。ところが、そういうふうな形になっていて、ここに全部社会福祉関係のデータも世田谷ボランティアセンターに集まっているのですよ。そんな仕組みになっているのです。ですから、例えば麻生区の場合は、今言われたように、市民交流館やまゆりと市民館と麻生区社会福祉協議会のボランティア活動センタ

一、そちらが3つありますよというふうに載っているわけなのです。それで、そのチラシを見ると、やまゆりでは、趣味や学習、福祉、地域ボランティア、仲間づくりなどということについて相談してください。趣味や学習ですから、サークル活動みたいな形になると思います。市民館のほうでは、趣味や料理や、体を動かすことという形になっていて、社協のほうではボランティアをしてみたい方の相談と書いてあって、自分が思っているボランティアというのほどこに入っているのだろうという形になると思います。例えば学校教育にかかわりたいとか、緑は公園緑地協会で行っていると思いますけれども、消防もありますし、河川愛護もありますし、麻生区には麻生赤十字奉仕団というところでもボランティアを募集しています。麻生区の地域教育会議でもボランティアを募集しているとなってくると、さてという形になって、先ほどの質問で、やまゆりの機能を拡大すればということを言われているのですけれども、そこまでまだ議論しておりません。ですから、今の状況はそういう状況だというお答えしかできないので。

金光委員長 あと何か疑問点はないですか。

石井（よ）委員 金光さんがおっしゃったのは、やまゆりがあるのにというふうなお考えからのお言葉だと思いますが、私どもは、さっき委員長がおっしゃったように、やまゆりさんはやまゆりさんの得意技があるでしょうし、社協さんには社協の得意技があるし、市民館には社会教育の分野での得意技があると、いろいろな得意技があるのを集めてみたらどうでしょうか、流れをよくするにはどうしたらいいでしょうかというところから来ているので、実現するかどうかは何ともあれですけれども、そんなに難しいことでもないかなとは思いますが、ここにコーディネーター機能を持たすとか、フェース・ツー・フェースの機能を持たすとか、それは並大抵のことではなくてと思っています。フェース・ツー・フェースと言っても、すごく身近なことを言いますが、下でホッとする風景写真展をやっています。これを集めるだけではなくて、写真を出す人もいれば、パンフレットをつくる人もいれば、張る人もいれば、いろいろな部門があります。でも、このときに、ことしの発見なのですけれども、写真を持ってきた人がいました。その結果、写真を持ってきた人が張ることのお手伝い、あるいはこれを番号づけするお手伝いとか、それぞれが当事者になっていくという経験をしてくれたのがとてもうれしくて、募集しています、募集していますということよりは、それぞれが当事者になっていく社会というのはいいなと思った次第です。

金光委員長 だからどうなるのかよくわからない。

石井（よ）委員 募集する側と何とかが、距離があるのではなくて、社会というのは、それぞれが当事者になっていく、つくり上げていくようなところも大変重要かと思えますので、その辺を相談できたり、コーディネートすることのできる機能もあわせ持った情報センターがあればいいなということです。

金光委員長 それをやまゆりができるのではないかとっているのです。

石井（よ）委員 だから、できていれば、何も、さっき金光さんがおっしゃったようなことにならないわけで、やまゆりさんだけでも……。

金光委員長 やまゆりの相談コーナーはそういうためにつくったのでしょう。

植木委員 総論はこれでいいと思うのですよ。あと各論をどうやって詰めていくかということだけだと僕は思います。

金光委員長 それでは、今のご説明を受けて、皆さん方、この提案に対して異議がなければ、拍手をお願いします。

〔 拍手 〕

金光委員長 どうもありがとうございました。承認が得られたものといたします。

## （2）区民会議フォーラムについて

金光委員長 それでは、次の議事に入らせていただきます。

区民会議フォーラムについて、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局 それでは、お手元の資料5-1をごらんください。麻生区区民会議フォーラムということで、先ほど岡倉部会長からもご紹介がありましたけれども、健康寿命をきっかけとして、区民の方に区民会議テーマの1つである地域のボランティア活動に目を向けてもらう機会とするということで、既にお知らせしていますけれども、日時は2月21日の日曜日、13時半開会ということです。定員は150人、第1、第2会議室を通して使いますので、150人、最大200人程度入るだろうということで設定しております。テーマが「健康寿命を延ばすには？」。当日の流れですけれども、参加いただける委員の皆様には、12時にこちらに集合していただきまして、会場設営のお手伝いをいただければと思います。13時開場で、そこから来場者を受け入れまして、13時半開会ということで、司会は高橋慶子委員からお願いしたいと思います。13時35分から、講演に入る前に、区民会議の取り組みの報告ということで、全体の説明を高倉企画部会長、若い世代部会につきましては白井部会長、市民活動部会につきましては岡倉部会長のほうからそれぞれご説明いただきまして、その後、14時から藤原先生の講演をいただくということで、90分の講演がありまして、質疑応答、16時閉会ということで、その後、片づけを行いまして、解散という形になります。

1枚おめくりいただきまして、資料5-2です。こちらは当日の役割分担が整理してありまして、ごらんいただければと思うのですが、若い世代が住みやすいまちづくり部会につきましては、受付と会場案内のお手伝いをするということで、どなたがどういう役割かというのは、この会議終了後にちょっと集まっていたいただいて決めたいと思いますので、少しお時間をいただければと思います。



また1枚めくっていただきまして、資料5-3で、フォーラムの配置図、第1、第2を通して使います。第2会議室の後ろには、区民会議の資料ですとか、健康づくりのつどいで使った市民活動部会のパネルなどを設置する予定になっております。

また1枚おめくりいただきまして、参加者のアンケートです。こちら、まだ調整中ですが、特に3番、4番につきましては、各専門部会の内容にかかわる質問を各部会で1問ずつ設定して、来場者の方に聞こうということで、各部会でご検討いただければと思います。若い世代部会は部会がフォーラムまでありませんので、きょう、終わった後、集まっていた際に意見をいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

また1枚めくっていただきまして、こちらが資料5-5で、フォーラムのときに発表する各部会の資料で、最初の1枚目が企画部会です、2枚目、3枚目の3ページ目までが若い世代部会です、その後が地域活動部会になっています。こちらも若干まだ確定していない部分がありますので、各部会で最終的に調整していきたいと思えます。

資料5-6が広報先ということで、既に地域メディアのほうには掲載されているということもありますが、区民会議ニュースとかホームページとか、ツイッターなど、あと、チラシにつきましては、市民館以下のところに配付ということで、今回はシニアの関係もありますので、いこいの家ですとか、老人福祉センターのほうにも置かせていただいております。

説明は以上となります。

金光委員長 どうもありがとうございました。フォーラムについて何か聞きたいこと、あるいは確認したいことはございますでしょうか。

なければ、私のほうからちょっとお願いがあるのですが、フォーラムをより認知していただきたいということで、呼びかけをしていただきたいと思うのです。きょう、事務局の方にチラシを大分持ってきていただいております。委員の皆様方は、皆さん方の住んでいる自治会に多分掲示板があると思うのですよ。日常、掲示板をごらんになっていると思いますけれども、その各掲示板にこのフォーラムのチラシを張っていただきたいのです。多くの地域の方々の目に触れていただくということで、掲示板を利用していただきたい。それから、ご自分の住んでいる両隣のところにはチラシをポスティングしていただいて知らせるような活動をぜひやっていただければと思います。150名ぐらい来るとこの会場はいっぱいになるのですけれども、今の段階ではどれだけの人が来るかわかりませんので、なるべく多くの人たちにこのチラシを配って、フォーラムがあるということを周知徹底したいということで、皆さん方に協力をお願いしたいと思います。帰りがけに事務局から、どれぐらい自分のところで配れるか、もらっていただければと思います。それから、委員の方々に所属している活動

している団体があると思うのですが、その団体の方々にぜひこのチラシを配っていただければと思います。それもあわせてお願いいたしますので、どうか協力いただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、このフォーラムについてよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いしたいと思います。

[ 拍手 ]

金光委員長 どうもありがとうございました。

### (3) 区民会議報告書について

金光委員長 それでは、次の議事で、区民会議報告書について、引き続き、事務局のほうから説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、お手元の資料6-2が第5期区民会議報告書についての資料でございます。先に資料6-2が報告書の目次の構成ということで、これまで企画部会などで、おおむねこういう形でいいのではないかとということでまとめていただいているものでございまして、つくりとしては、第1章については、区民会議の制度とか、過去の審議内容の紹介、第2章については、今期どういう形でテーマを選定したかということ載せていまして、第3章については、3つの部会の取り組み、第4章につきましては、今月の区民会議フォーラムのことを掲載しまして、第5章については、前期と同様に、提言は提言として独立させた章として1つにまとめるということで、提言の章と、あと、第5期の反省を入れたいと思っております。

資料6-1をごらんいただきまして、こちらが区民会議報告書を作成していくスケジュールということで、各部会の報告書の内容については、部会のほうで今たたき台をつくっているところで、内容としてはでき上がりつつあるというところなのですが、2月、3月の各部会で内容を検討していただきまして、3月の終わりのところに「報告書素案確認」とありますけれども、3月末を目指して、一応形をつくっていただければと思っております。4月、5月は、その報告書の微修正という形で部会で進めたいと思うのですが、どういう形で部会を開催するかは、もう少し報告書素案のできぐあいを見ながら相談していきたいと思っておりますので、それはまた日程については後日打ち合わせしたいと思っております。

最終的には5月13日の第8回の全体会議で最終的な案を委員の皆様にご確認いただいて、承認いただければ、そこで確定ということで、6月には報告書の印刷ができ上がるというスケジュールになっておりますので、委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。この報告書については、今の段階ではこの

程度のものしか皆さん方にご提示できないのです。まだ我々の報告書が完全にでき上がっていませんので、それができ上がって、それでこういう形の体裁になるというものができると、今説明のあったようなスケジュールで進めるということでご了解いただければと思いますので、よろしく願いいたします。こんなところでよろしいでしょうか。

区民会議からの麻生区市民提案型協働事業審査委員会委員の推薦について

金光委員長 それでは、その次の議題として、区民会議から麻生区市民提案型協働事業審査委員の推薦をする形になっています。その件につきまして、事務局のほうからご説明いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局 それでは、資料7で、これは議事とは直接関係ない事務的な話でございますが、区民会議から充て職で1名、麻生区市民提案型協働事業審査委員会の委員を出しております。詳細は裏面を見ていただきたいのですが、設置目的としては、「麻生区の課題の解決に資する事業を提案する団体と当該区が協働して実施する事業の選定及び評価に関して調査審議する」ということで、今、地域の団体から何か地域課題の解決に関する事業はありませんかということで提案を受けていまして、その提案の内容を評価していたり、また、その結果を評価していただくということが主な内容となっております。任期は、28年2月24日から2年後の30年2月23日までということで、現在は金光委員になっていただいております。これは第3期区民会議、第4期区民会議の企画部会長をしていただいたということで、全体的なところを知る立場にあるということで、なっておりますところですが、任期が切れますので、委員の変更ということで、企画部会長の高倉委員は既にあさお福祉計画推進会議の委員になっていただいておりますので、負担の平準ということで、企画部会の副部会長の菅野委員に金光委員からバトンタッチしていただければと思っております。こういう形でご承認いただければと思っておりますので、お願いします。

金光委員長 どうもありがとうございました。何かご意見はございますでしょうか。

[ 拍手 ]

金光委員長 それでは、区民会議から菅野委員を推薦する形になりましたので、よろしくお願い申し上げます。

#### (5) その他

金光委員長 それでは、その他、何かございますか。

植木委員 せんだって、7区の区民会議の連絡会議がありまして、それに参加させていただきました。その中で、目指すべき区役所像というお話を頂戴いたしまして、大変すばらしい内容を考えていらっしゃるなと思われました。それで、これについて麻生区に

おけるこれの具体化とか、それから、プロセス、工程表等々含めて、具体的にどういうぐあいに進めていくかというような内容につきまして、もし今、お話しできる内容があれば、少し触れていただきたいと思いますし、それがまだまだだよということであれば、いつごろそのようなイメージを、私ども区民会議の委員にお伝えしていただけるか、そこらのことについてお聞きしたいと思います。

事務局 先日は、区民会議交流会で、市民・こども局の区調整課のほうからこの件については説明をさせていただいた次第ですけれども、それで、これは今お手元に何も資料がない中でお話をさせていただきますので、恐縮なのですが、まず、目指すべき区役所像ということで3点挙げさせていただいております。1つが、市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所というのがあります。それから、2つ目としまして、ともに支え合う地域づくりを推進する区役所というのがあります。それから、3点目として、多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所というのがあります。この3つに対して今後どういうふうにやっていくかというところなのですけれども、中には既に進めているものもありますし、それから、これからこの目指すべき区役所像に向かってやっていきましょう、考えていきましょうというものもあるので、一概にこの事業がどういう段階でというのをお示しすることは難しいところがあるのですけれども、余りお時間もないかと思っておりますので、今進めていること、それから、これから考えていることを、どこまでお答えに添えるかどうかあるのですが、簡単にちょっとお話を……。

植木委員 1についてはいいですよ。これは行政の内部のことですから、2と3について。

事務局 2つ目のともに支え合う地域づくりを推進する区役所というところなのですけれども、地域づくりに向けた取り組みの推進というのが1つございます。地域の中で顔の見える関係をこれから築いて、地域コミュニティーをさらによりよくしていこうということを考えているところです。これについては、今度の4月から、地域包括ケアシステムに向けたいろいろな動きがございます。これは区役所の中でも組織の改編を行って、それに備えていこうということで、今動いているところです。それとあわせて、先ほどお話も出ていましたけれども、地域における皆さんの市民活動のネットワーク化とか、そういったことも考えてございます。その中では、今、麻生区では、先日、植木委員にも出席いただきました、地域人材育成連絡会議、こういったところで、今後地域におけるいろいろな市民活動のコーディネート役をどうやって育成していこうとか、そういったことも検討させていただいているところです。まだまだこういう形がいいなというところへ向けての具体的な動きについては、いろいろな課題も先日の会議でも見えてきたかと思っておりますので、そのあたり、これから詰めていければというふうに考えているところです。

3つ目の多様な主体の参加と協働によって地域の課題解決を図る区役所、これとも絡んでくるところではあるのですけれども、そういった地域活動をされている方々のネットワーク化については、麻生区については、先ほどもお話がありました、今、やまゆりさんのほうで、市民活動の支援ですとか、その連携なんかも既にやっていたところではあるのですけれども、市のほうでもこういった今後中間支援組織をどうやってやっていこうとか、それを地域の活動団体だけではなくて、大学ですとか、企業ですとか、そういったところも含めたプラットフォームをどうやっていつくっていこうかと、ちょっとスケールの大きな話も今検討しているところです。そういったところも今後いろいろな方針ですとか、計画ですとか、そういったところが見えてくるのかなというふうには考えております。

その3つ目の先ほどの多様な主体の参加と協働による地域の課題解決を図る区役所というところでは、今既に進めているところでは、地域課題対応事業というのがございます。これは先ほど麻生区の魅力の幾つかの例として挙げていただきました、例えば緑が豊かであるとか、芸術のまちであるとか、こういったことについては、今既に区のほうでも農と環境を生かしたまちづくりという形で事業を、黒川とか、早野とか、岡上とか、そういったところの地域の活性化等を目指した事業をやっていたりですとか、それから、芸術のまちづくりというところでも、いろいろな事業をやらせていただいているところです。

あと、先ほどとちょっと重複しますが、今既にやまゆりで行っていただいているような、区における中間支援組織としての機能も今後さらに進めていければということで、今のところ幾つか、この前、交流会の中ではかなり雑駁な説明を区調整課のほうでさせていただいたのですけれども、インターネットのほうでも、区役所改革の基本方針は、今、素案の段階ですけれども、既にごらんいただけるようになっておりますので、かなり雑駁な説明をさせていただいていますが、半分理念的なところもありますけれども、もう少し詳しく書いてございますので、よければそちらもごらんいただければと思います。今お話しできるのはこのような状況です。よろしく願いいたします。

植木委員 ありがとうございます。

岡倉副委員長 関連してお話しいただければと思います。今、植木委員のほうからスケジュールについてということで聞かれたと思うのですけれども、3月に素案が確定するのですか。たしか総合計画なんかも3月に確定すると、あとは市民活動の指針とかというのも3月末で確定するようなことを聞いていますけれども、それを受けて区役所としてどういうふうなスケジュールで取り組んでいくのかというのも質問にあったと思うので、できたらお答えいただきたいと思います。

事務局 そこは落としてしまいましたね。総合計画の中に区計画というものがございま

す。これが向こう2年、28年度、29年度、区役所の主たる事業といたしますか、いろいろな現状と課題に対して区役所としてこういうものを進めていくというのは、そちらのほうに書かせていただいておりますので、そちらのほうもごらんいただければと思います。よろしいでしょうか。

岡倉副委員長 ちょっとよくわからないので。今、3つの事業というふうなことを言われて、それで、最初の事業については、区役所サービスの充実、何かそんなふうな話をされて、それは今までやっていた区役所……。2、3の部分新たに始めるということなのですが、今やっていることプラスですか、それとも、何かを廃止して、2、3をやるということなのでしょう。その辺のイメージがわからないので、説明していただければと思います。

事務局 最初にお話しした3つ、これは目指すべき区役所像ということで、目標です。今やっている事業とか、そういうのではなくて、目標として3点挙げてありますということなのですね。ですから、既に今やっているものもございまして、これから新たに検討していかなければいけない課題もあるということなので、既に今あるものをつぶしてどうこうとか、そういった事業として3点挙げさせていただいたわけではございませんので、そこをご理解いただけると思うのですが。

岡倉副委員長 ありがとうございます。ちょっとイメージが、今までの区役所でやっている事業がどうなるのかというのが、つながらなかったもので、お話を聞いた次第です。それで、我々の部会のほうでも、こういうボランティアに関して、市民活動とか地域活動に関して、トータルでコントロールする仕組みは必要だよねという話が非常に出ています。そういう機能を今どこが持っているのという話で、やまゆりさん、持っているよと言われても、やまゆりさん、困るのではないかなというふうに思ったりするのですけれども、そういうふうなことが非常に大事だと。トータルでコントロールできるような制度設計、植木さんよく言われるのですけれども、うちの議論していると、これはトータルで制度設計ができていなければ、こんなの動かないよという話でちょっと言われるので。

植木委員 その制度設計は、この前、向坂さんに大分お話をして、十分ご理解いただいていると思いますから、これ以上余り行政をいじめないほうがいいと思います。ただ、これについて、皆さん協力して、何とかこれを実現しようという気持ちはあると思うのですよ。ですから、行政も前向きに出してもらい、我々も前向きに受け取りたいという気持ちで発言しておりますので、別に行政をいじめるとか、詰めるとか、そういうことではございませんので、そこら辺の趣旨を十分理解していただきたいというふうに思っております。これは行政だけでもできないし、市民だけでもできないと思うので、その辺のことをよろしく願いしたいと思います。

金光委員長 よろしいですか。今の件についてまだ何かありますか。

なければ、これできょうの議事を終わりにしたいと思います。

最後に、本日お忙しい中ご出席いただきました参与の皆さんから、麻生区区民会議へのご助言、あるいは感想などを賜りたいと思いますので、まず初めに、県議の相原議員からよろしくお願いいたします。

相原参与 ご苦労さまでございます。神奈川県議会議員の相原高広でございます。先ほど市議会議員の勝又議員もおられたようですが、お帰りになったようでございます。1時間半にわたって熱心なご議論をいただき、ご苦労さまです。私も興味深く聞かせていただきました。とりわけ市民活動・地域活動の活性化部会における「あさおボランティア情報センター（仮称）」のお話、総合的なコーディネート機能、これも日本全国どこへ行っても出てくる議論であります。人口が直感で言うと20万人以下の都市というのはこういう議論はないのですね。大体社会福祉協議会が一本化して、そもそも調整するまでもないというのが率直なところなのですが、一定規模の自治体、特に地域活動が熱心な地域ほど、誰かがどこかでコーディネーティングをしなければいけないというのが現実の話だと思います。世田谷区の例もご紹介いただいたわけですが、ぜひ麻生区発の何か新しい調整機能を発揮した組織、システムづくりをしていただければと思うところですので、期待をしているところです。

また、若い世代が住みやすいまちづくり部会のお話、麻生区と新百合ヶ丘の話は、私も日々生活しながら感じるところであります。私は、住んでいるところと聞かれば必ず川崎市麻生区と、仕事柄答えるのですが、私の妻や子供は、新百合ヶ丘と平気で答えているのが実態であります。これはPR戦略としては方法論としてあるのですが、心持ちとしては麻生区と答えるのが正解かなと個人的には思うところであります。いずれにしても引き続きご尽力をいただくわけですが、今度、21日には、区民会議フォーラムが行われるということで、大盛会をご期待させていただいて、私の雑駁な感想とさせていただきます。ありがとうございます。

金光委員長 ありがとうございます。

石川参与 同じく神奈川県議会議員の石川でございます。前回も参加させていただきました、いよいよいろいろ会議がまともに入ってきている、佳境に入ってきている段階だなということを痛感しております。前回、若い世代が住みやすいまちづくりのところですけども、私も前回お話をさせていただきましたとおり、山梨からこちらの麻生区に引っ越してきた中で、緑、自然が多いというところと、子育てしやすいというところは、来たときに非常に感じまして、また、治安がいいというのは、住んでみて非常に感じている、ここはやっぱりPRできる部分だというふうに。中に入っているとなかなかわからないのですけれども、外から来ると非常に感じるというふうに思っておりますので、ぜひこのところは積極的にPRしていただきたいというふうに思います。

もう1つお願いといいますか、あれなのですけれども、区民会議フォーラムが21日に行われるということなのですが、うちも自治会に入って、回覧板が回ってくるのですけれども、終わった後に回覧板が回ってくるのがございまして、実はこういうのがあったのだという部分もありますので、ぜひ早目にこういう案内を回覧板で回していただけると助かるかなということをお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

金光委員長 どうもありがとうございました。

参与の皆様方には、我々区民会議のほうにいろいろな助言をいただければ大変ありがたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

続きまして、本日、多田区長が所用によりましてこの会議に出席できませんでしたので、向坂副区長よりご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いします。

副区長 副区長の向坂でございます。本日はご出席いただきまして、ありがとうございました。今までのご審議の結果、聞いておりまして、もうそろそろまとめに入っていかなければいけないという時期になってまいりました。若い世代が住みやすいまちづくり部会、市民活動・地域活動の活性化部会、両方とも、今現在の少子高齢化を課題にそれぞれどうやっていったらその解決方法ができるかということで、委員みずから動いていただきまして、アンケート調査ですとか、各ところへの視察等をしていただきまして、その対応策をご検討いただいて、まとめていただいていると思います。両方ともに共通するところで、これまでのいろいろな活動の中で、地域では何もやっていないということではなくて、課題対応の事業とか、あと活動団体がそれぞれで活動を活発化させているというところが今麻生区の中ではあると思います。最後のほうで課題となりました、どうやってそれをまとめて、誰がコントロールしていくのかというところが一番大きな課題になってくるのかなというところが両方とも大きな課題かと思えます。

先ほど目指すべき区役所像がございました。実は去年まで私が計画書をつくり始めて手がけておりましたところでございます。目指すべき区役所像、これは実は総合計画が1つ30年というスパンが、基本構想というのがあります。その次に10年で基本計画というのをつくっておきまして、その下に実施計画がついています。目指すべき区役所像、区役所のあり方というのは、10年のところを目指しております。10年後にはこういう姿が求められるだろうということを目指してつくっていったということになりますので、今すぐに何かを手がけているかというところ、これから28年4月から組織変更をして、地域包括支援システムが一番大きな課題となっておりますので、そこを組織変更しながら、どうやって地域とつき合っていくか、区役所自体がどうやって仕事をしていくかというところをつくり上げていこうという手始めになります。これが



徐々にプロセスという形で、これが本当にそのままの組織がいいのかどうか自体も、10年後にはこうあるべきだというのがありますので、そこに向かってどうやっていこうか、それと、多様な主体との協働というところになりますと、ここでありますとおり、全体をコーディネートする中で、どうやって皆さん、地域にいる方々でお互いに助け合いながら課題を解決できるかというところをやっていかなければいけないとなりますので、手始めにどこから始めていくかというような、ここまで来ると一気に全部を解決するというのはなかなか難しいところになります。そういった部分も区民会議の中で、そこに到達するためにはどうやっていったらいいかということもご議論いただいて、そういうところでステップアップをしていかなければいけないかとなると思います。同じ課題を何回か順繰りにやっていっていただくという形になってしまうかもしれませんが、それが一番大切かなというふうに思っております。先ほどのご質問の答えになっているかどうかというところもございますが。

また、2月21日、区民会議フォーラムがございます。区民の皆さんに来ていただいて、区民会議のPR、こういったところの認知度向上も必要でございます。成功するようにやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしたいと思っております。

本日はお疲れさまでございました。ありがとうございます。

金光委員長 どうもありがとうございます。

それでは、若い部会の部会員の方々、このフォーラムについての役割分担をこの会議が終わった後にやりたいと思っておりますので、会議後、残っていただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

そのほか、事務局のほうから追加するべきことはございますでしょうか。

事務局 それでは、資料8に今後の予定等スケジュールを載せておりますけれども、次回の日程の確認だけよろしくお願ひいたします。次回、第8回の全体会議は、5月13日、金曜日、午後3時から行わせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

### 3 閉 会

金光委員長 ありがとうございます。

以上をもちまして第7回全体会議を終了したいと思います。ご苦労さまでした。ありがとうございます。

午後4時35分閉会